

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2019-008
2.研究課題名	食物と飲料のおいしさに影響を与える情報に関する感性心理学的研究
3.研究期間	令和2年2月（部局長承認後）～ 令和2年3月31日
4.研究の概要	<p>意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての的確に記すこと。）</p> <p>我々は食べなければ生きていけない。しかしながら、同時に食べることによって、大きな喜びを感じている。そのため、よりおいしい食物や飲料を作り出すことは、大きな産業を生み出すし、人々の生活の質を向上させることにもつながる。実生活での消費行動においては、食物や飲料の化学成分だけでなく、ロコミや共食者の表情などによって、おいしさや選択が左右されることも多い。</p> <p>そこで、本研究では、ロコミや共食者の表情などの要因が食物や飲料のおいしさにどのように関わるかということについて、市販の食物や飲料を用いて明らかにすることを目的とした。本研究では、これまで重要視されてこなかったロコミや共食者の表情などの社会心理学的な要因とおいしさの関係を明らかにすることにより、多くの人により質の高い食生活を提供する商品やサービスの知識を追加するという意義も持っている。</p> <p>方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと）</p> <p>東北大学の大学生・大学院生 50 名を予定し、口頭および掲示による募集を行う。参加者は 5 種類の食品あるいは飲料を渡され、それぞれについて予め指定されたスケジュールで自宅内で継続的に摂取、評価する（HUT）。また、自宅内での摂取の前後で、実験室内において同様の評価を行う（CLT）。CLT には 1 時間強を要し、実験参加にあたる謝礼として 1 回あたり 1000 円の図書カードを渡す。</p> <p>問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと）</p> <p>文学研究科心理学研究室（022-795-6048） 東北大学川内南地区「人を対象とする医学系研究」倫理審査委員会事務局（022-795-6103；sed-syom@grp.tohoku.ac.jp）</p>

（紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。）